

令和2年度
学校関係者評価報告書

令和3年3月

富山市立富山ガラス造形研究所

学校関係者評価委員会

富山市立富山ガラス造形研究所

学校関係者評価報告書 令和2年度版について

令和2年4月より高等教無償化制度が創設され、一定の基準を満たす大学等に在籍する学生を対象に給付型奨学金や授業料等の減免措置が行われることになりました。

この制度を実施できる大学等として確認を受ける機関要件の基準の一つに「学校関係者評価の実施・結果の公表」があります。

学校関係者評価とは、教職員が学校の目標・計画等に沿った取り組みの達成状況などについて評価した自己評価の結果及び今後の改善方策について、学校関係者が評価し、運営改善のための助言を行うことを目的とするものです。

これを受けて、昨年4月1日に「富山市立富山ガラス造形研究所学校関係者評価委員会」が設置され、私達が委員として委嘱されたところです。

今回、令和3年3月に「富山市立富山ガラス造形研究所学校評価委員会」が作成した学校自己評価報告書（令和2年度版）を基に学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告いたします。

令和3年3月

富山市立富山ガラス造形研究所学校関係者評価委員会

<委員>（五十音順）

- 砂田 友和（富山市企画管理部次長）
- 長島 美穂（マイルストーンアートワークス代表）
- 畠山 耕造（富山市ガラス美術館学芸専門官）
- 前田 善一（一般財団法人富山市ガラス工芸センター専務理事）
- 吉田 薫（ガラス工芸作家）

目次（点検項目一覧）

■基準1 教育理念・目的・育成人材像等

点検項目【1-01】	理念・目的・育成人材像は定められているか	1
点検項目【1-02】	学校の特色は何か	1
点検項目【1-03】	学校の将来構想を抱いているか	1

■基準2 学校運営

点検項目【2-04】	運営方針は定められているか	2
点検項目【2-05】	事業計画は定められているか	2
点検項目【2-06】	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	2
点検項目【2-07】	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3
点検項目【2-08】	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

■基準3 教育活動

点検項目【3-09】	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3
点検項目【3-10】	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	3
点検項目【3-11】	カリキュラムは体系的に編成されているか	4
点検項目【3-12】	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	4
点検項目【3-13】	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
点検項目【3-14】	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
点検項目【3-15】	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
点検項目【3-16】	地域社会との連携や地域性を活かした教育活動が行われているか	5

■基準4 教育成果

点検項目【4-17】	就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	5
点検項目【4-18】	退学率の低減が図られているか	5
点検項目【4-19】	卒業生・在学生の社会的な活躍、評価を把握しているか	5

■基準5 学生支援

点検項目【5-20】	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	6
点検項目【5-21】	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	6

点検項目【5-22】	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	6
点検項目【5-23】	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	7
点検項目【5-24】	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	7
点検項目【5-25】	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	7
点検項目【5-26】	保護者と適切に連携しているか	7
点検項目【5-27】	卒業生への支援体制はあるか	7
点検項目【5-28】	留学支援や海外との提携による国際教育交流の体制はあるか	8

■基準6 教育環境

点検項目【6-29】	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	8
点検項目【6-30】	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	9
点検項目【6-31】	防災に対する体制は整備されているか	9

■基準7 学生の募集と受け入れ

点検項目【7-32】	学生募集活動は、適正に行われているか	9
点検項目【7-33】	学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	10
点検項目【7-34】	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	10
点検項目【7-35】	学納金は妥当なものとなっているか	10

■基準8 法令等の遵守

点検項目【8-36】	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	11
点検項目【8-37】	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	11
点検項目【8-38】	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	11
点検項目【8-39】	自己点検・自己評価結果の公開をしているか	11

■基準9 社会貢献

点検項目【9-40】	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	11
点検項目【9-41】	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	12

1. 教育理念・目的・育成人材像等

【1 - 1】 理念・目的・育成人材像は定められているか

- 理念・目的・育成人材像については、開校時からのものと思われるが、ガラス造形に係る教育をどのように行ってそのような人材育成に結び付けるか適宜検証することが望ましい。

【1 - 2】 学校の特色はなにか

- 工芸の裾野は広い。その中で、富山ガラス造形研究所は、どのような頂を目指すのか探っていく必要がある。その際、ガラス造形とガラスアートの整合性を考慮しなければならない。

実際のところ、入学生の志望動機は幅広いが、どのような志望動機に対しても対応できるように見通しを立てることが望ましい。

- 造形科と研究科の差別化をより明確にすることを検討してはどうか。例えば、前者は基礎技術の取得に重点を置く一方、後者はよりアート志向的なものにするというように。

- 教養を身に付けることが重要であり、そのためには論文を記述する機会を学生に与えてはどうだろうか。

【1 - 3】 学校の将来構想を抱いているか

- 今後の方向性を打ち出すため、運営委員会委員、富山市ガラス美術館、富山ガラス工房等から意見をもらいながら富山市担当部局での協議を重ねている。

- 世界には学位を取得できるガラス造形教育機関が約70校あるが、富山ガラス造形研究所はこれらと競合していかなければならない。
- 海外の学校は3～5年毎に統廃合したりして変化を模索するなど、生き残りのために努力している。富山ガラス造形研究所も怠りなく改革するうえで、外部の人を交えた運営委員会を頻繁に開催してはどうか。

2. 学校運営

【2-4】運営方針は定められているか

- 運営方針は、その時々々の社会状況や前年度の募集実績などをもとに、きめ細かに対応していく必要があると思われる。また、市長や担当部署の責任者に対しても、説得力のある根拠が必要と思われる。開校時から30年経って、社会状況は著しく変化し、応募者数も減少傾向にある中で、運営方針の策定はますます困難で重要な仕事になっていくのではないかと。

【2-5】事業計画は定められているか

- 適切に定められている。

【2-6】運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

- 市が定める規則に基づき、効率的にすすめられている。

開校当初より設けられている運営委員会は年1回開催され、理念・目的・育成人材像などの基本的計画の検証や教育活動の状況報告と質疑応答の機会を設けられている。

また委員からの意見等は事業・運営計画に反映するよう努められている。

【2 - 7】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

- 市が定める規則に基づき、整備されている。

【2 - 8】 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

- 市の財務会計上のシステムと、学籍・成績管理等のデータに切り分けて、効率的に運用しているが、学校を運営する上で情報通信技術を有効活用できる余地は大きい。

3. 教育活動

【3 - 9】 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

- 大卒での「専門的知識」と「技能」という目標設定は当然のことであるが、時々刻々と変化する社会情勢を見る時、30年間、同じ目標を掲げるのはマンネリを招くことにならないだろうか。10年に一度くらいは、富山ガラス造形研究所にしかない「独自の」「新しい」専門的知識や「技能」を掲げて、応募者を募っていかないと、どんどん応募数が減少してしまうように思われる。

【3 - 10】 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

- 客観的な目標値を設定することが肝要と思われる。

【3 - 11】カリキュラムは体系的に編成されているか

- 体系的に編成されている。

今後とも時代の変化に応じて対応すべきである。

【3 - 12】学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

- 適正な位置づけが行われている。

【3 - 13】授業評価の実施・評価体制はあるか

- 学期（前期・後期）ごとに成績会議および講評会が実施されている。

講評会は外部の美術関係者（美術館・大学など）を招き、異なる視点より幅広い意見をいただいている。

【3 - 14】育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

- 確保されている。

採用にあたっては公式 HP などから広域的に募集案内を行ない、公正な審査を経て優秀な指導者を選定されている。

【3 - 15】成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

- 明確になっている。

評価基準は学則に明記され、学生便覧等で記載、配布されている。

また、公式 HP には「成績評価における客観的な指標」「富山ガラス造形研究所卒業の認定に関する方針」として公表されている。

【3 - 16】 地域社会との連携や地域性を活かした教育活動が行われているか

- 市が推進する「ガラスの街づくりプラン」に基づき、公開講座や公開制作、展覧会への参加など、多くの市民がガラス工芸・造形分野に親しむことができる機会の創設に努めているが、一般市民の認知度が決して高くはないこともまた実情である。
- ワークショップなどが一般公開されているが、さらなる地域社会との連携の在り方等を検討する必要がある。

4. 教育成果

【4 - 17】 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている

- 就職率の動向は、これまであまり重要視してこなかったようであるが、芸術系の学校でも、大阪芸術大学のように就職率を大きく広報している例がある。
- 卒業後の人生設計のアドバイスや就職情報の提供は、大切である。

【4 - 18】 退学率の低減が図られているか

- とりわけ精神面の不調を訴える学生については、できる限りの対処を行い、場合によっては専門職の支援を得て対応すべきである。

【4 - 19】 卒業生・在学生の社会的な活躍、評価を把握しているか

- 卒業生との情報共有を図ることが大切である。
- 卒業生・在学生の社会的な活躍、評価は把握されている。

5. 学生支援

【5 - 20】就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

- 概ね、有効に機能していると考えられる。

ガラス関係の就職先が少ない中での就職、進路指導は重要な業務である。

【5 - 21】学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

- 概ね、有効に機能していると考えられる。

学生個人では解決できないことは多い。制作活動だけでなく学校生活についても、面談によって糸口が見つかる場合も少なくないので、確実にフォロー願いたい。

【5 - 22】学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

- 修学支援新制度として給付型奨学金の支給や、授業料及び入学金の減免措置が整備されている。以下のことが公式HP上で公表されている。

「大学等における修学の支援に関する法律の公布・施行により、令和2年度以降に機関要件の確認を受けた学校に入学する新入生や在学生を対象に日本学生支援機構が実施する給付型奨学金の支給や、授業料及び入学金の減免措置が行われることになり、現在、本校の造形科においてこれらの支援の対象機関として富山市長から機関要件の確認を受けている。」

- 公立ということもあり、経済的支援は充実していると思われる。

【5 - 23】 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

○ 精神面のケアを目的に、富山市保健所や保健福祉センターとの連携も図っており、学生のストレス軽減等に努めているが、なおも心身の不調を訴える学生が存在することもまた事実である。

○ 概ね、有効に機能していると考えられる。

心身共に健康を維持するために各所との連携、ケアは重要である。

【5 - 24】 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

○ 特殊性の高い分野の教育機関であり、支援体制の必要性を判断することには、困難が伴うものと考えられる。

【5 - 25】 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

○ 敷地内に隣接した学生宿舎や近隣に民間アパートがあり、情報提供を行なっている。

【5 - 26】 保護者と適切に連携しているか

○ 必要に応じ、適切な連携がされている。

【5 - 27】 卒業生への支援体制はあるか

○ 年間行事への参加の呼びかけや公募展の情報の提供も行われている。

卒業後の研究生制度も設けられている。

○ 富山ガラス造形研究所として現況を把握できていない卒業生も少なからずおり、卒業生と研究所あるいは卒業生同士の交流を促進する仕組みづくりが課題である。

【5 - 28】 留学支援や海外との提携による国際教育交流の体制はあるか

- 国際教育交流体制が整備されている。

海外のガラス関係機関との提携により海外留学制度を設けている。

希望者には情報を提供し、対応が行われている。

6. 教育環境

【6 - 29】 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

- 開校後、増築された施設もあり制作するための十分な施設・設備が整えられていると思うが、開校して30年余り経過しているため設備・機器などの故障もあるようである。

学生アンケートでは、ほとんどの学生が、施設設備が良く整備されていると答えている。

- 施設や設備に関しては、設立30年を経過し老朽化していることから、少なからぬ箇所において不具合が散見されるが、予算の制約があるため、抜本的な改善には至っていない。

- 備品については、高額な機械器具が多く、耐用年数を過ぎても使用している機器もあるため、故障などで授業に支障をきたさないよう、メンテナンスや部品交換を細目に行いながら対応している状況である。

【6 - 30】 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

- 学外学習：美術館や展覧会鑑賞。工房や会社訪問などが行われている。
海外研修：海外のガラス関係機関との提携によって交換留学制度やワークショップ参加ができるよう情報提供や相談対応が行われている。
- 海外研修は、学生の経済的負担が大きいことや言語の障壁があること等の理由により、近年は活発とは言い難い。

【6 - 31】 防災に対する体制は整備されているか

- 市消防局の指導のもと災避難訓練を実施されている。
また、火気を扱うため、日常における危機管理・安全管理体制が十分に整備されている。

7. 学生の募集と受け入れ

【7 - 32】 学生募集活動は、適正に行われているか

- 適正に行われている。
学校案内パンフレットおよび公式 HP など募集案内告知がされている。
また、高校や専門学校、大学への入学募集案内・PR ポスターや学校案内パンフレットの配布、美術館系雑誌への広告掲載などで情報発信されている。
- 応募数が減っており、さらなる募集活動を強化する必要がある。

- 学校の教育研究活動を丁寧に広報することが重要である。富山ガラス造形研究所だけが力を入れていることを強調してはどうか。
- 学生募集において効果を上げるためにも、ワークショップや特別講義等に招く諸外国の作家について、どのタイミングで誰を呼ぶか頻繁に運営会議等で議論すれば良からう。

【7 - 33】 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか

- 学校案内パンフレットや公式HP などで卒業生の進路および活動、受賞歴などを掲載している。
- 卒業後の就職先、卒業生の活動をもっとわかりやすくパンフレット、ホームページに載せていくことが、夢を持った入学希望者増加につながるのかもしれない。とりわけホームページについては、卒業生の作品一覧、経歴などはあるが、最近の卒業生のインタビューや制作動画なども掲載すれば良いのではないか。

【7 - 34】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

- 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われている。

【7 - 35】 学納金は妥当なものとなっているか

- 平成23年度（2011年）以降は、改定されていない。妥当なものと思われる。
将来的には時代に沿った見直しの可能性もあるだろう。

8. 法令等の遵守

【8 - 36】 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

- 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。

【8 - 37】 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

- 個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。

【8 - 38】 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

- 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善が行われている。

【8 - 39】 自己点検・自己評価結果の公開をしているか

- 公式HP（学校案内ページ）において「学校自己評価報告書」として公開されている。

9. 社会貢献

【9 - 40】 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

- 年間行事に際し、市民も参加可能な公開講座や公開制作が実施されている。
同時期には校内に学生の作品が展示され、鑑賞機会を設けている。
- 従来の公開対象である学生、富山市ガラス工房、富山市ガラス美術館、一般市民に加え、金沢卯辰山工芸工房等も公開対象に加えて事業を行えば良いのではないか。

【9 - 41】 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

- 学生のボランティア活動の事例としては、アーティスト・イン・レジデンス事業の運営アシスタントとして協力してもらうことが挙げられる。これにより、学生は自らがガラス芸術文化活動の普及・啓発の一翼を担う人材であることを自覚するとともに、自身の知識や技術を向上させている。

ただし、学生の多くがプロのガラス作家を目指していることもあり、通常はボランティア活動を行う者が少なく、特に規定も設けていない。

したがって、学生のボランティア活動に対する特段の奨励や支援を行っていないが、富山ガラス造形研究所の特性を鑑みると止むを得ないものとする。